

# 國本工業株式会社（静岡県浜松市）

～先進技術で未来を切り開く自動車部品メーカー～

## 1. 創造性の発揮と高付加価値への飽くなき追求

國本工業株式会社は、織屋として昭和35年に浜松にて創業した（昭和45年に株式会社に組織変更）。当初は、大手二輪車メーカーの下請けとして二輪車のサイドスタンド等を製造していたが、その後、国内の二輪車生産が頭打ちとなり、四輪車用部品（マフラーなど排気部品）の製造へと事後を転換していった。

自ら新たな技術を提案する社長は、「顧客はいつまでも発注してくれるとは限らない。」「自動車の駆動系の部品加工などで常に技術で先行していきたい。」「國本に行けば難しい加工も簡単にできる、と言われるようになりたい。」として、創造性の発揮と、高付加価値化を追求している。

## 2. 新技術と特許

平成14年6月、同社は、中小企業創造活動促進法の認定を受けてプレス金型によるパイプ曲げ加工技術の開発に着手した。そして、従来のベンダー曲げ（曲げ専用機）に必要なチャックしろ（固定部）をほとんどなくすことで、材料歩留まりを向上させ、また連続曲げ・複数曲げ・極小曲げといった設計の自由度の向上やバラツキの減少を達成した。

この技術については敢えて特許出願しない道を選択した。この技術で製造した自動車用部品は、一旦車内に組み込まれれば特許侵害の発見が困難である一方、特許出願をすると技術が公開されることになるからである。

他方、平成16年8月に開発したパイプ切断装置については、特許出願の道を選択した。特許制度を利用することが会社にとって有効であると判断したかたである。その頃から、同社の知財についての意識も高まっていった。

その後、パイプ曲げやパイプ切断以外にも、従来1.3～1.4倍が限度だったパイプの拡管を3倍にまで拡管できるようにする技術や、従来40%が限度だったパイプの縮管を50～60%まで縮管できるようにする技術など、パイプのプレス成形による技術を次々と開発し、プレス加工・一体構造部品化による各種部品の製造コストの削減を図るとともに、これらの関連技術十数件について特許出願も行った。

こうして、同社は従業員30人程度の企業であったにもかかわらず、大手自動車メーカー等との取引を獲得し、また大手メーカーのコンペで高級車の部品を受注するまでに成長した。

## 3. 知財管理体制の充実

平成17年、同社では、社内に知財の担当者を配置して審査請求などの期間管理を行うようになったが、当初は品質管理業務との兼任であった。平成19年からは社長直属の知的財産室を設置し、知財担当の専任化を行るとともに外部コンサルタントの活用も開始するなど、知財管理体制を拡充していった。社内の知財管理体制を強化することで、大手自動車メーカーとも対等に共同開発を行うことができ、特許関係のトラブルもなく、共同開発の成果が共同出願に至ったこともある。國本社長は、「専任の知財担当者や外部コンサルタントの存在が非常に大きい。」と語っている。

同社では、月に1度、社長・知財担当者・コンサルタントをメンバーとする知財戦略会議を開催し、特許出願すべきか否かの判断を含め、知財戦略を議論している。

#### 4. 「規模ではなく強さ」を「量ではなく質」

受注の拡大により会社の人員は拡充しているものの、工場内は基本的にオートメーションによる省力化を図っている。また、同社の技術から生まれる製品は、一体構造であるため、低コストであるだけでなく、曲げや取り付け部分の形状が見た目にも非常に美しい。

同社では、「未来への勝ち残り」を合言葉に、「規模ではなく強さ」を「量ではなく質」を求めた会社作りを目指している。

#### ●保有権利に基づく製品例



スパークプラグチューブ



ターボオイルセパレートタンク



ターボオイルセパレートタンク  
(本体断面写真)

#### ●会社概要

|          |   |
|----------|---|
| 名称及び代表者名 | 國本工業株式会社 代表取締役社長 國本 幸孝  |
| 本社所在地    | 静岡県浜松市東区貴平町320  |
| 創業       | 1970（昭和45）年   |
| 資本金      | 1,000万円   |
| 従業員数     | 53名   |
| 主要製品     | 自動車部品（マフラーなど）   |
| 電話       | 053-434-1237  |
| URL      | <a href="http://www.kunimotokogyo.co.jp">http://www.kunimotokogyo.co.jp</a> |